

さ
ら
り

代表取締役社長
糟谷雅隆氏

～ お客様の製品を安心・安全にお届けするために ～



太陽シールパック株式会社

Company Profile

代 表 者 糟谷雅隆 代表取締役社長
 設 立 昭和30年9月8日
 事業内容 パルプ・紙・紙加工品（ファイバードラム等）の製造
 各種包装資材の企画・開発・製造・販売
 所 在 地 〒641-0036
 和歌山市西浜1660-700（本社）
 T E L 073-448-4689（代表）

物流に欠かせない産業用包装資材・機材の製造・販売を手掛け、高付加価値な製品の保管・輸送に使用される紙製ドラム缶ファイバードラムにおいて国内トップシェアを誇る太陽シールパック株式会社。化学・医薬・食品業界のお客さまが中心ですが、半導体・電機・機械・自動車など多くの業界の発展に寄与し、私たちの生活を支えています。また、今年9月には創業70周年という大きな節目を迎えられました。

今回、代表取締役社長 糟谷雅隆氏（議員／一般工業部会 副部長）に、創業から今日まで、事業内容、創業70年を迎えての想い等についてお話しいただきました。

〈創業から今日まで〉

1955年、日本初のファイバードラム製造販売会社として和歌山市築港に誕生しました。創業のきっかけは、戦後の援助物資としてアメリカから日本に入ってきた粉ミルクの容器にファイバードラムが使用されているのを祖父 糟谷光夫が目にしたことであったと聞いています。

ファイバードラムとは、強度と軽さを兼ね備えた紙製のドラム缶と考えていただければわかりやすいかと思います。当社製品は主に化学品や医薬品の輸出用に使用され、容量は10～250リットルまで幅広く対応しています。また、粉体だけでなく、液体、固形物、鋼材用など応用範囲も広く、お客さまのご要望に応じて開発・製造を行っています。また、古紙を約90%使用した原紙で製造するため、限りある地球資源を有効活用した環境にやさしい製品となっております。

創業当時、ファイバードラムは日本国内での認知度が低く、素材が紙ということからその強度を懸念する声が多く、営業活動は難航したそうです。そこで、認知度を上げることが先決と考えた祖父は、輸出品のための包装(容器)を集めた輸出品包装展覧会に出展することになりました。軽量かつ高強度、従来の金属製の缶などより低コストであることなどが高く評価され、同展覧会で通商産業省(現経済産業省)軽工業局長賞を受賞しました。以降も様々な展示会で賞をいただき、着実にファイバードラムと当社の認知度を上げていきました。

〈社内システムの構築に着手〉

東京で学生生活を送っていた私のもとに、父が倒れたと突然の知らせが届いたのは1990年11月のことでした。24歳という若さで2代目を継ぎ、成長期から発展期への移行を力強く牽引した父 糟谷圭増は享年49歳という若さで亡くなりました。

父の死後、「いずれは和歌山に戻らないといけない」との思いを抱きつつも化学会社に採用いただいた私は東京に残ることを決めました。しかし、営業職として5年目を迎える頃、和歌山に戻ってくるよう連絡を受けました。

その頃、3代目 糟谷元春は経営環境の変化に備えるべく経営企画室を新たに立ち上げました。私は経営企画室長として迎えられ、社内制度の整備や社内の情報システム化に着手することになりました。まず、社内の業務連絡や指示連絡などは基本的に電子メールを使用し、業務に関連する情報交換を行う場をネットワーク上に設けました。また、2001年には新たな社内情報基幹システムの構築・運用を開始、各業務が書類中心からデータ入力へと変わり業務効率化、事務コストの削減につながりました。また、蓄積したデータは製品別・顧客別で管理し、それらを活用・分析・応用することで顧客満足度の向上に反映させることができるようになりました。

現在もSalesforceを活用した営業関連情報の集約・共有や生成AIの活用など時代に合ったIT化を推進し、業務品質の向上や生産性効率化を図っています。

〈柔軟な対応力でピンチをチャンスに〉

2009年に4代目代表取締役社長に就任以降、最も大きな転機となったのはやはり新型コロナウイルスによ

るパンデミックです。陰鬱とした空気に世界が包まれ、当社も営業活動ができない状況に陥り、先行きが見えない不安が募っていました。そこで、この困難な状況を前向きに捉え、外出できない時間を新たなことに挑戦する時間に変えることにしました。

試行錯誤した結果、当社がたどり着いたのは「外部人材の活用(副業、コンサルタント、外部委託等)」でした。社員には核となる業務に集中してもらい、その他は外部人材の力を借りることにしたのです。

製品開発部門では当社が持つ知識・経験・技術と外部人材の方が持つ知識や客観的な視点を掛け合わせ、互いを補完することで開発スピードが格段に上がりました。また、製造工程の機械化・自動化に向け、外部の目と専門的な知識が必要との考えから定期的に現場確認したうえで改善策等を提案いただいております。今後ますます人の採用は厳しくなるでしょう。省力化・省人化のための機械化・自動化は必至であり、当社では現在の業務の半分以上を機械化できるよう進めております。

今後の展望としては、ファイバードラム以外の当社の顔を皆さまに知っていただきたいと考えております。日本初のファイバードラムメーカーであり国内トップシェアであるため、有難いことに“ファイバードラム＝太陽シールパック”と広く認識いただいております。しかし、当社は“製造業としてのものづくり力”だけでなく、“商社機能としての柔軟性”も兼ね備えた「メーカー・商社」です。多種多様な産業用包装資材・機材を取り揃えているに加えて、70年にわたり培った情報収集力、分析力を活かし、ファイバードラムに限らない、お客さまの製品に最適な包装資材・機材をご提案できると自負しております。また、海外企業との提携による海外商品の輸入販売も行っております。今後は、“産業用包装資材・機材＝太陽シールパック”と認識いただけるよう更に注力してまいりますので、自社製品の包装・物流のことでお困りごとがあればぜひ当社にご相談いただければと思います。

〈創業70年を迎えて〉

今年、70周年という大きな節目を迎えられたのも、これまで当社の成長を支えてくださったお客さま、お取引先さま、社員たちのおかげと考えております。この場をお借りして、関係各位に改めて深く感謝します。

2016年8月、創業時から稼働していたことによる老朽化と本社と工場が公道で分断されており非常に不便であったことから、本社・工場を和歌山市築港から和歌山市西浜へ新設・移転しました。当社は全国に5拠点(和歌山県、新潟県、神奈川県、香川県、山口県)ありますが、本社は創業地であり長きにわたり私たちが育んでくれた和歌山以外は考えられませんでした。また、地場産業として化学工業が盛んな和歌山の地には私たちを必要とくださるお客さまが多くいらっしゃいます。この先も地域の皆さまと手を取り、地域活性化の一端を担うことができれば嬉しく思います。

今後も、たくさんの道から自分たちの進む道を模索しながら、できること、すべきことをし尽くすことで、お客さまや社員、皆が安心して楽しく生きていくことができるよう、『尽道楽生』を胸に今後も社員一同、挑戦と進化を続けてまいりますのでよろしくお願い申し上げます。